

地域懇談会実施報告書

地区名	美麻地区
開催日	平成20年10月21日(火)
時間	18:30~20:40
開催場所	美麻公民館 講堂
参加人数	49人
懇談内容	別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

行政資料コーナー設置の要望

対応

行政コーナーを本庁、八坂支所、美麻支所、図書館に設置するよう検討中。



行政側参加者氏名

美麻支所 支所長 鷲澤 孝友

美麻支所総務民生課長 佐藤 修一

美麻支所産業建設課長 小林 敏文

記録者氏名

美麻支所総務民生課 高橋由美子

美麻地区地域懇談会議事録

平成 20 年 10 月 21 日 18:30 ~

1. 開 会 美麻地区連合自治会副会長

2. あいさつ 美麻地区連合自治会会長

今年は大きな台風の被害もなく、平穩に過ごせた。今晚は大勢の皆さんにご出席いただきまことにご苦労さまです。合併して、とかく市役所や市長が遠くなったとお思いの方もいると思うが、しかし、市役所も市長も身近な存在でなければならないと思う。今晚は直にお話できる絶好の機会なので、出席の皆様へ忌憚のないご意見をお出しただいて、美麻地区地域懇談会を盛り上げていただきたい。

3. 市長あいさつ

連合自治会長のお話の中に、市長という職または市役所という機関が身近な存在でなければならないとあったが、私もできるだけ市民の皆さんの間に入って、ご意見ご提言を伺いながら市政に反映させたいと考えている。これからは基礎自治体として、住民の皆さんと直接接点を持ち、敷居の高い存在であってはならないと感じている。

地域懇談会は昨年6月に始まり36回となり、2巡目は美麻地区が初めてで、自治会の数にして59自治会と懇談させていただき、1年4ヶ月で99自治会のうち3分の2まで来た。その中で、伺ったご意見ご提言にまだ沿えないものもあるが、できることから始めようということで、一部政策に反映させたものもある。今日は去年よりさらに進んだ意見交換をしたい。

協働による地域の再生として、行政と市民のみなさんとの協働、市民の皆さん同士の協働の中で様々な地域課題を解決していこうと考えている。自治会の活動や近隣の助け合いはもともとあったが、協働という言葉でまとめながらさらに前進させたい。9月13日の三蔵呑みくらのイベントのように、行政、自治会のような組織がやろうというのではなく、自然発生的な大きな行動だと思う。このような協働をさらに各分野に渡って進めたい。

経済状況は世界経済の急激な悪化など、日銀の月例経済動向も10月は弱いと表明。せっかく大都市の景気がようやく地方に波及し、地方も上向きになってきた矢先に、突然低下したという厳しい状況。市財政では税収も厳しくなるが、財政運営に破綻をきたさないよう来年の政策を精査し策定していきたい。

地域づくり関連で「ふるさと信濃大町応援団」を10月1日からスタートした。これは市へのさまざまな応援として、国の施策でふるさと納税制度として、故郷への寄付という形で納税していただく。しかし、お金の付き合いだけでなく、観光客の皆さんにも応援団として大町に度々訪れてもらうとか、市政や地域づくりへの提言をいただくなど、広く積極的に呼びかけていきたい。

地域高規格道路松本糸魚川連絡道路については、地域には骨格となる道路が必要ということから昨年県が調査してきた。起点をどうするかについては、豊科インター北に分岐点を作り高瀬川右岸道路につなげる案が示され、波田町からより約11km 近く、現道を活用す

ることから工事費が少なく、改良が済んだところから活用できる現実的な案だと思う。一方、一般道路として時速60km制限であること、高速性と安全性の確保ができるかなどレベルの高い道路になるだろうかという疑問は残るが、国からの補助金の確保により、より整備水準が向上することを期待している。来春までに沿線の合意形成を進めて、県に期成同盟会を通じて、一刻も早い着手を要望していきたい。

4. 懇 談

出席者

加沼先生が12月でやめられると明言している。私は現在通院しているが、美麻診療所の医療体制が落ちてしまう。そのような現状をどう考えているか。送迎などもどうなるのか。

市長回答

この夏に、この冬をもってやめたいという申し出があった。真意を聞き、慰留をしてくれている。昨年夏にも故郷に戻りたいという話を聞き、その際も真剣に慰留をし、解決すべき課題を尋ね、解決し残っていただいた。寒い冬を越えるのが大変だということで今現在も慰留している。さりとて意思も固く、平行して県に後任の先生がいないか打診しているのも事実。ひとり適任の先生がいたが、最終的に現在勤めている勤務先に引き止められこちらに来ることができなくなった。しかし、病院勤務は宿直等大変だが、県にも診療所ならという先生もいるようなので、県には最優先で大町にと要望している。途切れることのないよう、空白期間が生じないような取り組みをしていく。

出席者

現在、政府が追加予算を計画しているが先が見えない。新聞に赤字国債の発行はしない、特別会計の霞ヶ関の埋蔵金を活用すればという記事が載っているが、そのようなものがあるのか。

市長回答

国会は先般補正予算を可決した。2つの柱として、ひとつは景気対策、もうひとつは弱者対策、補正予算に具体的な政策が実行されて初めて効果が現れる。年度当初に予定していた財源以上に今回補正を組んだことから歳出に充てる財源をどうするか、財政の秩序を乱さない、将来に負担を残さない範囲で赤字国債を起こしていくのではないかと思う。

埋蔵金と呼ばれている特別会計に留保されている積立金等を活用すればという意見があるが、安易な判断と言わざるを得ない。単に一般会計が足りないからといって特会から取り上げてしまうことはできない。それは将来特別会計として使う予定があるもので、天から降ってくるようなお金ではない。国の行財政改革をしっかりと進めて、歳出を効率化させることによって収支を均衡化させる努力があってしかりだと思う。

出席者

企業は大変厳しい状況で、市の財政状況も厳しくなることが予想される。その中で、市の財政をどのように健全化していくのか考えを聞きたい。

市長回答

県は、今年歳入の動向について、法人関係税で193億円を超える歳入不足を発表。他の財源を合わせても170億円足りない。当初予算を割り込むという、かなり大変な状況。市では9月の定例市議会の前に市の歳入の再点検をした。市でも約200社に税務課から確認したところ、だいたい当初で見込んだ税収が確保できることがわかった。しかし、これはたまたま業績の良かった会社があって、20年度はこれで保てたが、21年度は全国的にどの企業も厳しくなってきて、税収見込みも厳しく見込む必要がある。単年度ごとの歳入歳出のバランスを取ることと、将来に向けての財政の健全性を確保する取り組みが必要。歳出は住民サービスを低下しない工夫と効率のよい仕組みができないか、経常経費の見直しができないかなどを中心に検討している。

現在、来年以降3年間の実施計画のヒヤリングを行っているが、今後來年の歳入見込みを立て、その中に各事業が納まるかがポイントとなる。財源を見極めて最終的な決断をする。大変厳しいが、今までも厳しくない年はなかった。知恵を出し、住民の皆さんの理解を得ながら進めたい。

出席者

情報の公開というと大袈裟だが、市民への伝え方が上手くない。議会の議決された中身について「議会だより」には項目のみ、市の広報には何もなし。普通の市民でもわかるよう、例えば図書館に議案集を置くとかの予定はないか。議案の名前や議決されたことはホームページに載っているが、さて中身はといった時わからない。一般の市民向けの広報をもう少し工夫してもらいたい。

市長回答

議案は今回でも十数もの条例改正案件や補正予算などがあり、市の広報に載せるのは物理的に不可能と思う。伝えたい、伝えなければならない情報と市民が求める情報のギャップもある。自分の関心のあるところだけを見るなど、市の広報は標準的な内容を載せるのが精一杯になっている。

議案の内容などは、議事録を見るのが一番よいが、現在は3ヶ月後でないといきあがらない。議案集については閲覧ができる。

行政は市民参加であり市の情報を知っていただくことの原点は変わらないと思う。一般に公表を前提していない情報は情報公開条例に基づいて行う仕組みがひとつ、一般にお知らせする方法としてホームページを活用し始めている。今年見やすいように改善を行い、つい先頃も、行政が行うものだけでなく、市民活動としてや観光イベントとして行われる催しをホームページから見る事ができる仕組みにした。大事なことは知る努力、もちろんそれに答えられる行政側の努力も必要だが、知る権利知ろうとする義務などお互いに大事な要素として取り組みたい。

出席者

委員会の審議のための情報を知りたくて、調べたら制限公開ということで情報公開条例のっとなければいけない。知る努力知る義務と言われるがそれは大変なプレッシャーであ

る。先ほど言ったように図書館に置くなど、公開できるものはできるはずではないか。ホームページの公開もそんなに大変ではないのではないかと。今どういうことが議論されているのかなどは、もうちょっと工夫してもよいと思う。

市長回答

議案集については支所にも閲覧用があってもいい。このことは持ち帰って相談したい。身近なところで手にとって見られるように手配したい。

議会は議会のルールで情報公開している。議会もオープンにということで、本会議もインターネットで中継している。大勢の皆さんに分かりやすい答弁をし、質問の工夫もしていただいている。出来るだけ開かれた議会に私たちも努力したい。

(後日、検討した結果、市役所本庁、八坂・美麻両支所及び市立図書館にコーナーを設け、資料を配置することとした。)

出席者

大町病院のことでお聞きしたい。大町病院の医療現場のうわさ、風評があるが、入院してみると実際は異なり、看護婦さんをはじめ現場の皆さんは、患者の立場に立ち昼夜努力されていると実感した。

全国的に医師不足が取り上げられているが、医師確保についてお聞きしたい。テレビで千葉県の市立病院が経営破たんしたという報道があった。大町病院の経営状態はどうか。市議会の資料に大町病院の赤字は減価償却費が主で現金では収支均衡しているとあったがどうか。

また、2年前ほど前から法律の適用を受けてやると聞いた。病院の組織について病院設置者とか管理者、病院長などどのような責任分担や連携をしているのか。現場のスタッフの皆さんと、どのような形で意思疎通を図っているのか。

市長回答

医師不足について、日本中で足りない地域と余っている地域がある。大都市圏の大病院に集中する傾向が3・4年前から顕著である。信州大学の付属病院でさえ足りない。

東京では、仮に先生が増えてもベッド数は増やせない。例えば、東京の虎ノ門病院では先生が余ってきていることから給料を引き下げると言っているそうだ。それではと、医師が地方に戻る揺り戻しが2年後くらいに現れるのではないかと信大付属病院長が言っている。しかし、ただ待っているわけにはいけないので、大町病院では東京で今度卒業する学生を対象とした病院案内の会合にブースを出した。それですぐ来ていただくことにならなくても、地道な活動が必要だと思う。いろいろな「つて」やアイデアで募集していきたい。

病院では毎週病院長、管理者、事務長などが集まり「医師確保対策委員会」を開き、情報を持ち寄り、良い情報があれば当たってみようという努力をしている。

病院経営については、千葉県の銚子市民病院で、経営破たんではなく、日本大学医学部から送っていた医師を一斉に引き上げられたため閉院した。大学との連携も大事だが、自ら医師を確保していくことも大事。

経営状況について、現金は黒というのは、企業会計では企業の継続性のために、例えば2

7年の建物の価値が徐々に失われるとすれば、27年後に同じものを建てる経費を毎年の収益から留保し、それを経費として計上するのが減価償却費。それをちゃんと積み立てれば貯金ができる。その内部留保の額がこの春で6億円余あるので資金繰りは厳しくはない、実質では赤字ではない。よく言われるのは、地方自治体の病院は現金が赤字にさえならなければいい、それが最低ラインだと。しかし、医師が足りなくなり受入患者を抑えているため資金は減ってきていることから、医師確保に力をそそがなければいけない。

法適用は地方公営企業法では、一般会計とは分けて特別会計を設けて資産などを管理できる公営企業会計方式で行うやり方で、更に事業によっては運営組織も柔軟に決められる仕組みにより、今年度病院管理者を設けた。それぞれの役割は、開設者としての大町市の責任では、経営全体の応援などは引き続き行う。病院管理者は理事者として経営と医療の責任を、院長は医療を専門的に総括する。

スタッフとの意思疎通は各部門の幹部が集まって運営委員会を毎週開いて、重要事項などを話し合っている。例えば、看護部長は決定事項等を持ち帰り看護師長、看護師と伝え、風通しをよくしようと改革している。

うわさがうわさを呼んでいるが、病院の職員も一所懸命やっているので実際に見てほしい。そこで気になるところ、直してほしいところは直接言ってほしい。頑張ってるねと言われれば信頼が戻ってくるし、良くないことがあれば良いことが沢山あっても打ち消してしまうという話をして頑張っていこうとしている。

出席者

提案だが、私も勤めているところは管理職だったが、会社では管理職を集めて宿舍を提供、炊事等してくれる賄いの人があった。診療所の先生も特別に福利厚生面でも考えてあげればどうか。

市長回答

私も単身赴任を経験したので気持ちはわかる。どこの市町村においても通常職員宿舍等は設けていない。それは自宅から通える範囲であるからと思う。医師には医師住宅として提供しているが、なかなか集合住宅の受け皿もなく、先生方も個別のほうがよいと思っているかもしれない。

加沼先生とは待遇改善の打ち合わせもしたが、今の医師住宅が嫌とは言っていなかった。炊事は大変であるが、賄い人を置くまでの必要性は感じていないようだ。周りの環境が安定して、医療に専念できるような環境を用意することは大事だと思う。

出席者

美麻地域づくり会議で、岐阜県中津川市加子母地区へ視察に行ってきた。見習うところがあって大変有意義な視察となった。そういった活動の中、地域づくり会議の特例の活動資金について永久に続くか心配している。元手があってもなくてもやらなければならないが、内容ももっと広げていく必要があると思う。今は一部の人々が忙しくしているところがある。活動を進める上でも市長の考えを聞かせてほしい。合併してお互いよかったと思える取り組みができたらいいなと思う。

市長回答

中津川市も7つの市町村が合併して、大きくなったことで、中々意思疎通が難しいと聞く。その中で旧山口村の方から住民の自治を大事にしていこうと努力していると聞いた。大町で言えば美麻の地域づくり会議であると思う。合併しても行政はひとつになったけれども、それぞれの地域で解決できることは地域でやるというような、地域の良さは守っていくことは大事。美麻地域づくり会議は他と比べても活発で、協働の考え方とイコールだと思うのでこれからも活発に活動して欲しいし、行政としても大事にしていきたい。活動に必要な資金についても頑張っていきたいと考える。ただ、資金が支給される、されないに関係なく、自主独立の気風でしっかり頑張っていきたい。

出席者

美麻に来てから二年経ち、転々と転勤をしてみず北安曇野に住みたい気持ちがあり、現在お世話になっている。どこも地域の活性化ということで苦労されているが、私から見れば大町はあまり努力しなくても市の活性化はあると思う。大町の特長として全てに山が出てくる。外から来た人からすると、大町市の方は、素晴らしいものが少しも素晴らしいと感じていないのではないかと。例えば、大町に来てすぐ雪形鑑賞会に参加した。すばらしかったが参加者は20名くらいで外部の人が多かった。非常にもったいない。雪形祭りや温泉のツアーをネットワークなどを通じて、大町市もこれだけの景観を持った町なのだから、もっと外部に打って出てPRしたらどうか。

市長回答

私も帰ってきて、こんなに素晴らしい自然、温泉、雪など、この土地の持つ多様な自然環境や文化遺産など地域の人はあたりまえと思っている節がある。天恵を感じ、活かしていかなければと思い、ホームページのコラムなどに外部にはもちろん、市民の皆さんにも感じてもらいたくて書いている。

PRをしていく知恵、例えば大町を地域ブランドとして外に発信していくよう、現在信州大学にも連携協定を結び調査し、戦略を立てている。ネームバリューとして大町という名前が知られていない。黒部ダムに来る観光客もこの地を周遊して印象に残すことはしていない。何とか滞在して周遊するような取り組みも併せてしたい。観光大使については大町に縁のある人をお願いし、PRに一役買ってもらえるような提案もある。情報発信やイメージ先行で来ることなど特に大事にしたい。

出席者

北アルプスと道祖神に魅力を感じてここに住むことを決めた。商店街は30年前に来たときは活性していた、市街地活性化でも観光立市なら店を開けよう、これを売ろうと活気に満ちているはず。勝手にだが、美麻グラウンドは、背中に爺、鹿島、五竜と全部抱えている、なぜ活用しないかもったいなあと感じている。スポーツの合宿などにPRすることもできないか。

市長回答

大町の運動施設は大分整備されており、市内には宿泊施設も多い。社会人のバレーボー

ルや少年スポーツチーム、先日はトライアスロンのチームが木崎湖での合宿などで良さを知って来てくれている。先ほどの道祖神の話も外から見れば魅力のひとつ。勉強になった。

出席者

メンドシーノのことで、今年はこちらが行った。個人負担と助成金で運営しているが、大変お金が掛かるということで、資金の関係で長野県から少しでも助成が受けられないか。

今年学校の授業の関係で補習授業をやったと聞いたが、短期留学ということで学校や教育委員会が承諾すればやらずに済むことはできないか。また、先生方は個人負担で行ってもらっているが、公務として行くことはできないか。

市長回答

村の時代から行政と一緒に、現在は実行委員会として活動していただきありがたい。今回、私も一緒に行き、メンドシーノ交流は実がある交流だと改めて感じた。一番感受性豊かな子どもたちが行く交流はすばらしい。坂城町では大きな企業が移転する時の寄付を基金として、その運用益を使って代表者を海外へ派遣するような事業はある。県とすれば地域が独自に行っているものに補助金を出すことによって自立を阻害したくない気持ちもあるし、地域づくり支援金という制度もあるが事業の立ち上げを支援するという趣旨からは対象になりにくいかもしれない。特別な取り組みとして国の特別交付税の要素としてアピールし、財源確保には努めている。

補習授業の件は、実の上がる勉強なので位置づけの問題、教育委員会に伝えてみたい。ただ、親御さんとすれば授業はきちっと受けてほしいというご希望もあるのかもしれない。先生の公務出張の扱いの件は、実行委員会主催であれば難しいと聞いているが、補習授業とあわせて教育委員会に伝え、研究検討する。

5. 市長からお礼のあいさつ

長時間にわたりありがとうございました。いただいたご意見、ご提言の中には市政の根幹に関わる問題もあった。おろそかにすることなく、きちっと対応したい。今日、発言したかったが時間が無くできなかった方や、人前ではという方も、市長への手紙というのもあり、また各担当などへも気づいた点があれば寄せてほしい。

6. 閉会 美麻地区連合自治会副会長

(懇談会終了 8:40 終了)